

日本NGO連携無償資金協力事業 事業完了報告

【添付書類① 活動写真報告】

実施団体名：特定非営利活動法人 SEEDS Asia

事業名・国：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業(インド)

事業実施期間：2015年10月13日～2016年11月30日迄

事業期間中は、プロジェクト実施地にて下記の活動を行った。

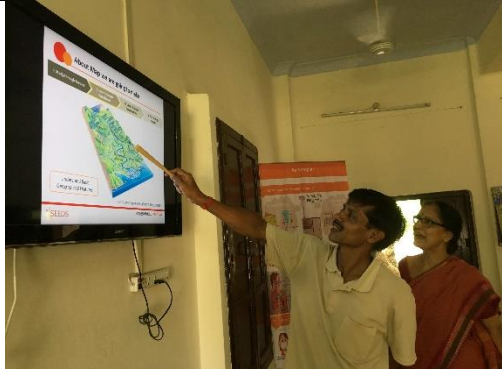
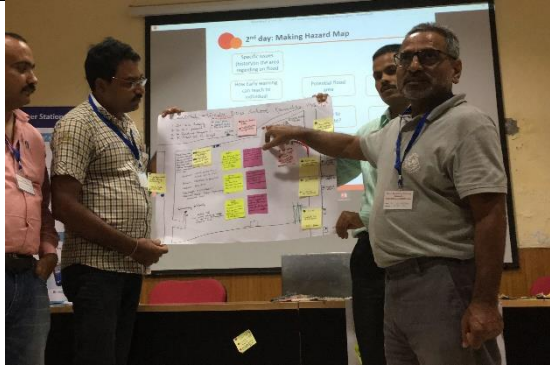
キックオフワークショップの実施

	
キックオフワークショップの開催 プロジェクトの目的の共有と協力を呼び掛けた。 [2015年11月]	キックオフワークショップの開催 バラナシ市長より歓迎の挨拶。 [2015年11月]

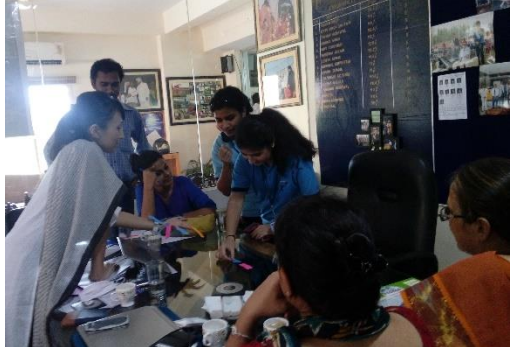
1. CS (クライメートスクール) の整備による実測に基づいた防災教育／気候変動教育

	
クライメートスクール整備に向けた気象観測・大気汚染観測機材の設置・供与 [2015年12月から5校に順次設置]	クライメートスクール整備に向けた気象観測・大気汚染観測機材の設置・供与 [2016年7月より順次設置]

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業(第1年次)

	
第1回 気候変動／防災教育指導者向け研修 防災の基本概念やアジアの様々な国で実施されている防災教育とその効果について紹介。 [2016年4月]	第1回 気候変動／防災教育指導者向け研修 学校における災害リスク分析結果(SDRA)に応じて、今後の活動計画を各校が策定。 [2016年4月]
	
第2回 気候変動／防災教育指導者向け研修 教員向けに災害の概念の理解を徹底する他、河川の成り立ちなど、地形の理解を深める他、雨量とその影響について学んだ。 [2016年7月]	第2回 気候変動／防災教育指導者向け研修 「まちあるき」によって、学校の周辺住民へのインタビューを行い、過去の災害について情報を収集する他、学校周辺の危険な場所や便利な場所、緊急時の連絡先、子どもの遊び場所などを防災マップに入れ込み共有した。 [2016年7月]
	
指導者研修を受けた教員による子どもたちへの防災教育 [2016年9月－11月]	指導者研修を受けた教員による子どもたちへの防災教育 [2016年9月－11月]

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業(第1年次)

	
防災教育教材 “Diaster Diary: Making Disasters Relevant”の作成 一般には知られていなかったバラナシの災害の歴史を共有した。 [2016年8月-10月]	CSにおける観測機材の活用状況モニタリング (在印日本大使館職員も参加) 雨量の観測記録を基に、通学時のバスの運行に関わる注意喚起の基準値が提案された。 [2016年8月]
	
教員へのモニタリングを通じた防災教育の実施状況や知識の定着の確認 [2016年10月]	生徒へのモニタリングを通じた防災教育の実施状況や知識の定着の確認 [2016年10月] ※当日の様子はNHKワールドラジオを通じて世界中に発信された。

2. 地域防災協議会向けトレーニングの開始

1) 6月15日、16日：災害リスクの共有とトレーニングのニーズ確認



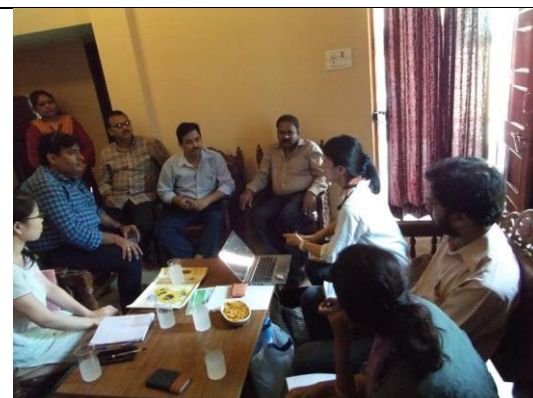
それぞれのCSをサポート・協働する地域防災協議会が発足。アーリヤン国際校は郊外に位置し住民が少ないため、市内全域を回る学校のバス運転手らにより協議会を結成しトレーニングを受講した。

[2016年6月]



シュリ・アグラセン校を支える地域防災協議会（Aggarwar Samaji Society）のリーダー等から情報を収集した。

[2016年6月]



セントラルヒンドゥ校と協働するラジブナガル地域のグループ(Rajeev Nagar Social Welfare Society)メンバーと、地域のリスクやニーズを確認した。

[2016年6月]



京都市立高倉小学校の校長を専門家として招聘し、学校と地域の連携の具体的事例やその重要性を共有した。

[2016年8月]

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業(第1年次)

	
京都から自主防災専門家を招聘し、地域防災協議会の他、教員や子どもと一緒に防災技術のスキルアップを図った。 [2016年8月]	7月のトレーニング及び地域のリスク分析、8月の京都からの専門家訪問を踏まえ、各地域の計画を策定した。 [2016年8月]
	
バラナシで発生した洪水(8月)で被災した地域防災協議会のメンバーは、研修で学んだことを活かして水位の上昇が始まる頃に要援護者を早めに避難させた他、住民の避難誘導や避難所運営などの緊急時対応において重要な役割を果たした。 [2016年8月]	ネットワークミーティング 国家災害対応部隊(NDRF)を招き、バラナシで発生した洪水について情報共有を行った。災害経験を踏まえて今後の地域防災協議会の在り方について協議した。 [2016年9月]

3. 市民防災活動推進センターによる全市的な防災啓発活動の推進

1) メディアや大学、教員をメンバーとして啓発を推進するツールを開発し共同制作を行った。



メディアとの意見交換

CS に通う生徒の記事を定期的に新聞に掲載するなどの案を検討。

[2016 年 4 月]



メディア、学校関係者による編集委員会で協議を行った。

[2016 年 4 月]



生徒が作成した記事やポスターなどから構成されるバラナシ子ども気候・防災新聞の編集委員会を立ち上げ、選考会議を経て発行した。市内の学校・地域の他、ホテルや商店などを通して一般市民に配布されている。

[2016 年 8 月 - 11 月]



創刊号発行の際には、生徒が新聞発行に従事したことへの感想を発表する機会を設け、バラナシ県による協力が約束される運びとなった。

[2016 年 8 月]

バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業(第1年次)

報道記事：

報道記事① 複数紙 (2015年11月16日、17日 UP州)

キックオフワークショップについて掲載された



報道記事② 複数紙 (2016年4月16日、17日、18日 UP州)

クライメイトスクール、周辺校、地域防災協議会を対象とした第1回 気候変動／防災教育指導者向け研修について掲載された



報道記事③ ヒンドウスタン・タイムズ紙 (2016年7月14日 UP州)

事業の紹介と共にバラナシ子ども気候・防災新聞の発行について掲載された



報道記事④ हिन्दुस्तान・タイムズ紙 (2016年7月31日 UP州)

「まちあるき」研修の様子が掲載された



バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進支援事業(第1年次)

報道記事⑤ ヒンドウスタン・タイムズ紙 (2016年8月3日)

京都市から防災専門家(京都市立高倉小学校の岸田蘭子校長、京都防災寺子屋の太田 興代表)を招聘した研修の様子が掲載された



以上